令和４年度第２回　高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所　２階大会議室
Ｒ５．２．22　18：30～20：30

１　開会
　司会：健康増進課課長

２　議事
①令和４年度事業報告，令和５年度予定について
　事務局より説明

【田岡会長】
　事務局のほうから，令和４年度の報告，令和５年度の予定の説明があり，口腔保健支援センターの支援件数はすでに 200 件を超えている。成人歯周病検診は来年度 60 歳まで拡大となっている。
　フッ化物応用推進事業では，自主校長会で高知市歯科医師会が講話をさせてもらう機会をいただき，それを機に１校が職員研修会につながったと聞いている。
　高知市歯科医師会が委託を受けて実施している医歯薬連携推進事業は，先週の水曜日に研修会を開催した。参加者も増えてきている。
　まずは歯科医師会の沼田委員から，医歯薬連携推進事業について，また，自主校長会ついての報告をお願いしたい。

【沼田委員】
　まず医歯薬連携推進事業の研修会は，２月 15 日に，歯周病と糖尿病重症化予防の地域と職域の連携について，高知市の歯科医師会館と，オンラインでのライブ配信という形で開催した。
　今までこの医歯薬連携推進事業というと，どうしても医師，歯科医師，薬剤師というイメージが強かったが，今回の研修会は副題で「地域職域連携のすすめ」とあり，今までよりも幅広い職種の方々，高知県歯科衛生士会や高知市基幹型地域包括支援センター，高知市保険医療課，協会けんぽなどに周知をさせていただき，オンライン配信だったこともあり，看護師，管理栄養士，介護士の方，職域の方など，医歯薬以外の参加があり，80 名弱の方々に講演を聞いていただくことができた。
　コロナの影響もあり，人数がなかなか集めにくい状況下で 80 名を集められたということは，一定の効果があったと思う。
　今年度のテーマをもとに，現在リーフレットを作成しており，３月末までに完成予定としている。またリーフレットが作成でき次第，皆様には地域への配布等のご協力をいただきたい。
　続いて，小学校自主校長会についてだが，第１回目の検討会の時に，歯科医師会がフッ

化物洗口について，校長先生が集まる会等でお話ができるか？と質問したときに，松岡副会長よりできると回答いただいた。その後，具体的に進めることとなり，２月２日に，高知市のたかじょう庁舎の方で，講話をさせていただいた。

今回は小学校の校長先生を対象に行い，30 名参加だった。内容は，学童期におけるお口の健康提案という内容でお話した。

昨今は新しい生活様式になり，コロナ禍で，学校での歯みがきやうがいは禁止，食事は黙食，などの影響で様々な弊害が出てきている。感染対策としてはいいかもしれないが，例えば食べる力，口の筋力の低下が起こっている。さらに歯みがきをしないままでは，マスクの内側にどれだけ菌がついているか，といういわゆるお口の中の菌，ばい菌の話と，お口の周りの筋，いわゆる筋力，この「菌」と「筋」という形で話をさせていただき，それに対する予防対策として，ばい菌に対してはフッ化物洗口を行い，フッ化物の力で，ばい菌の力を抑えていく，もう一つは，洗口，口を動かすことによって，少しでも口の筋力を鍛えていくという提案をさせていただいた。

講話後のアンケートの集計結果について，先ほど事務局からも少し報告があったが，参加者全員に提出いただき，講話の内容についてはほとんどが，理解できたという回答であった。

小学校での歯みがきの実施については，30 校中８校しか実施していないという現状が分かった。

フッ化物洗口について検討中で，来校して説明してほしい場合は，学校名を記入くださいという項目では，５校の小学校が名前を記入いただき，話を聞きたいという回答をいただいた。

校長先生方に直接働きかける機会をいただいて，動きがあったということは，非常に有益ではないかと思っている。先ほど事務局が説明したように，すでに口腔保健支援センターが，反応があった小学校への対応を行っている。

アンケートで書いてくださった質問内容についても，後日回答を行うという形にしている。

今回のこの自主校長会では，結果に結びついたという話だけではなく，講話を実施するに当たり，事前に松岡副会長の一宮小学校に訪問し，実際現場に行かせていただいたこと，養護教諭の秋月教諭にも話を聞くことができ，実際のフッ化物洗口の実情と，無理をせず実施している現状など，いろいろな話を聞かせていただけるヒアリングの機会が取れたことが非常に有益だったと思う。

高知市歯科医師会，小学校の校長先生，口腔保健支援センターが，口の健康課題を共有でき，連携して取り組むことにつながったように思う。これを１回実施したといって，成果が出たというわけではなく，今後継続的にいかにどのように繋がっていけるかということが，今後の課題だと思う。

松岡副会長の方から，自主校長会の当日の雰囲気とか，その後の反応とか，そういった現場のお話を，最後少しお聞かせいただきたい。

【松岡委員】
沼田先生から先ほど報告があったが，ほとんどの校長が納得いく内容であったと，アンケート結果でも見えた。校長も子ども達の口の健康は気にはなっていて，どうしたらいいのだろうと思ってはいるけれど，きっかけがつかめないまま日々過ごしているといった状況の中，今回お話いただいたこと，事後アンケートを実施いただいたことで，自分の声を表すことができたため，次へつながる架け橋を作っていただいたと思っている。
今日お話を聞くと，結構な学校から反応があり，次の方向へ進めていることを大変うれしく思っているが，ただ私のところに届いた声で，フッ化物をいいと思っていない人もいて，そこの部分の壁があると思った。自分はフッ化物の効果を知っていて疑うことがなかったが，そういった人たちへの理解促進が必要でそれが前に進む糸口になるのではないかと思う。
また今回の校長会での講話は，中学校の先生にも聞いていただくチャンスはあったのだが，まず小学校からやってみようとなり，今回は小学校校長対象に行った。次回は中学校の校長にもお話を聞く機会を作っていただけたらと思う。

【沼田委員】
今回の校長会で，地域の保育園のフッ化物洗口が進んできている中で，受け皿として小学校がどう受け取るか？と最後に投げかけたが，校長先生方がどう感じていただけるか？と考えていた。
確かにフッ化物についても，いろいろと誤解のあるところ，疑心暗鬼なところがまだ社会にあることを知っている。
今回の校長会の事前のヒアリングをして，直接一宮小の先生方とお話ができたこと，高知市がその架け橋として繋いでくれたこと，話すことによって，お互いに共通認識が持ちやすかったこと，現場の声を聞き，まず小さな取組ができたことは，今回ありがたい経験をさせていただいた。

【田岡会長】
フッ素については，過去の事例等で誤解が生まれやすく，フッ素に対して否定的な方がいるというのを聞いているので，そういう誤解を解いていくというのも今後必要なのかなと思う。歯科医師会としても取組を続けていけたらいいと考えているので，これからもご協力をお願いしたい。

【松本委員】
よさそうなお話かなと思う。実際現場へ導入できない理由があるとすれば，何か物理的なものなのか，経済的なものなのか，安全的なものなのか。いいものならやったらいいのにと単純に思ったが，何が問題だと考えているか。

【松岡委員】
安全面については，先ほどお話ししたように危惧する方がいるということである。
現場がなぜ取りかかることができないかと言うと，子どもたちが歯みがきやフッ化物洗口を，落ち着いた環境の中でできるかどうかということをまず，先生たちは危惧する。学習する中に，フッ化物洗口を入れることによって，暴れたり，落ち着きがないような状況ができるかもしれないといった，要因が新たに入るということが，先生たちにとっては，できれば新たな取組をやらずにそのまま学習に入りたいと考える方もいる。
あと，そのフッ化物洗口の時間，洗口した後 30 分ぐらい飲んだりお口をゆすぐことなく過ごす時間をどういうふうに組み入れていくのか？ということなどが不安になる。
現場の中で取組をリードしていく存在がいるかいないかで大きく変わってくるのではないかと思う。

【田岡会長】
結構この件は難しい話で，我々も何度も，１週間の中で５分ぐらいどこかで取れるでしょうなどと校長先生にお話したこともあるが，なかなかギチギチの時間の中でその時間を作るのが難しいだとか，施設面のことだったり，コロナのこともあったので，うがいをした後の飛沫がどうこうっていうのもあったり，あとは教員の中で１人でも反対意見があればそのままなし崩し的になるなど，なかなか一筋縄ではいかないことがあった。
我々もそんなにいいものをなぜ使わないっていうのがやっぱりあるので，随分昔からそういう話はしているがなかなか進んでいない。
こうやって校長先生の中でも，賛成意見を持ってくださっている方がどんどん増えてきているので，ちょっとずつでも広がっていくと思う。そして父兄の方が，学校側にやってほしいというのを言ってくれることは，行政とか，我々歯科医師が言うこととは全然違うので，ＰＴＡの中でも学校側に言っていただけたら，動きやすいと思う。

【松本委員】
その前段として，連合会の方でもいろいろな研修とかをやったりしているので，その一つとし保護者向けの講演などをお願いしたらやってくれるか。

【田岡委員】
歯科医師会の方に言っていただけたら善処する。

【松本委員】
前向きに進めるとして，お金とかは，どこかが出してくれたりするか？

【健康増進課】

健康増進課の口腔保健支援センターの方で開始に当たっての予算を取っているので，初めてやる段階の時には，こちらですべて物品とか薬剤とか購入するようにしている。

小学校の方は，継続の分も今は予算で何とか，支援をしている状況である。

②高知市健康づくり計画における歯科口腔保健の取組

事務局より説明

【田岡委員】

事務局より高知市健康づくり計画における歯科口腔保健の取り組みについて，あと国の基本事項について，高知市の健診結果を踏まえた現状について，第三期健康づくり計画における高知市の方向性について説明があった。

今後の取組というのは，先ほど 12 ページにあったように，「１．歯・口腔に関する健康格差の縮小」「２．歯科疾患の予防」「３．口腔機能の獲得・維持・向上」「４．歯科医療を受けることが困難なものに対する歯科口腔保健」「５．社会環境の整備」，この５つを目標とするということだった。

むし歯予防は子どもだけではなく，先ほど出てきた根面う蝕，根っこのう蝕も含めて，大人のむし歯が課題になっている。成人期は，以前は歯周病予防の取組がメインになっていたが，8020 運動も進んで，歯が残っている方が増えてきたので，その分歯周病が進んで，根っこが出てきたところのむし歯が増えてきたことから成人期もフッ素を使ってむし歯予防をしていくことが必要になってくると思う。

保険点数も，65 歳以上で根面う蝕の方にフッ素塗布をしたら算定できるようになっているため，国の方向性にも入ってきているのではないかと思う。

歯周病予防は，小中学校の歯肉炎予防とか，成人期は重症化予防が課題になってくるが，まずは子どもの頃からのセルフケア，かかりつけ歯科医を持ち，定期的に通って管理をしてもらうというのがすごく大事な体制になってくると思う。

口腔機能の獲得，維持，向上というのは，その時その時で取り組むのではなく，乳幼児期からスタートになってくるというふうに思う。まず食べる機能を獲得することから始まり，よく噛んで食べることが，生涯を通じて大切な習慣になってくるので，マスク生活で口呼吸になったりとか，口の機能が低下することっていうのは，子どもだけではなくて成人期以降も気をつけていかないといけないというような話だったと思う。

きちんと食べられる，咀嚼良好者を増やしていくことやオーラルフレイルの予防は，大人になってからではなくって，子どもの頃から，しっかり口腔機能を獲得していくことが大人になってもしっかりかめて美味しく食べるということに繋がってくるのではないかと思う。

歯科疾患の予防や口腔機能の維持，維持，向上っていうのは，別々に取り組むのではなく，これからは一緒に取り組んでいかなければいけないことで，ライフコースに沿った取

組が今後必要になってくるのではないかと思う。

そこで皆さんにご相談したいことが，社会環境整備が必要ということで，各々の立場からどういうふうにしていったらいいかというようなご意見をいただけたらと思う。

まず私からは，高知市は共働きの家庭がすごく多くて，高知県は離婚率が全国一でひとり親も多いと聞いている。両親だからいいというわけでないが，親が忙しくて時間が取れない環境の子もいると思うが，そういったところの社会環境整備の必要性について聞きたい。

まず，水田委員，保育園での健康格差や子どもたちの食べ方とか，口の機能など，現場の方から見て，こういうところがもし改善できたらとか，こういうことが今困っているというのがあれば教えてほしい。

【水田委員】

保育園でやっぱり気になっているのは，以前だったら子どもと一緒に給食を食べていて，苦手な物でも「先生も食べるから一緒に食べようね」などと一緒に食べることができたが，コロナ禍ではそれができなくなっている。また，もぐもぐのお口を，マスクを外して大人が見せることもここ３年間はやりにくくなった。

これがマスクも取れて一緒に食べるということができるようになると，子どもと近くで寄り添いながら，食べることを楽しみながらということが復活できるのではないかと思っている。

また，高知学園短期大学の学生さんに年長児の歯みがき指導に来てもらっているが，今は距離を取ってやっているので，来年度からは以前のように，学生さんに直接子どもの歯みがき指導をやっていただけるようになってほしい。子どもたちも楽しみにしている。

あとは，障害児支援っていうところが出てきているが，障害のある子で，むし歯だらけになっていても，なかなか一般の歯医者さんで見てもらえない状況があり，どこへ行ったらいいかと困っている。まず，診察台に座るだけとか，口を開けるだけとか，スモールステップでいかないと治療まではなかなかたどり着かないと思う。例えば歯科医師会の方で，障害を持っている子どもさんの専門というか行きやすい歯医者さんを教えてもらいたい。

あとは，令和３年度からフッ化物洗口を始めているが，もうすぐ年度末になって今３歳の子どもたちが４歳に上がるのでフッ素洗口に向けて水で練習をしている。音楽をかけて水でぶくぶくうがいをし，ペッと出した時に，友達と見比べて，泡立っていなかったら負けず嫌いな子はもう１回やると言ってまた水を入れて練習したりもしている。

１名だけ実施しないという返事がきているが，その子どもは吐き出さずに飲み込んでしまうことがあるので，スタート時点では実施しなくても，またできるようになったらやっていきたいなと考えている。

【田岡会長】
松岡委員，小学校の方で，家庭環境だったりとか，健康格差とか，子どもの口腔内環境に影響したりだとか，あと先ほどのマスク生活の課題とか，歯肉炎について学校での課題だったりとか，今後の取組等何かあるか。

【松岡委員】
歯肉炎については，前回の会議でもお話をさせてもらったが，フッ化物洗口をしているからといって歯肉炎を予防することはなかなか難しいので，歯肉炎を防ぐにはやっぱり歯みがきが大切なので，子どもたちに習慣づけるように働きかけている。

【田岡会長】
実際，コロナで歯みがきするのは難しいのではないか？

【松岡委員】
私の学校では，子どもたちは食事が終わったら歯みがきをしている。だからといって，コロナの感染者数が増えたという傾向もないし，子どもたちに歯みがき後の吐き出しのマナー等を教えるのが大切だと思っている。
歯みがき後はすぐにマスクをすることも定着できているため，コロナだからといって歯みがきを制限したりはしていない。

【田岡委員】
その学校の教育方針というか，コロナに対する考え方がそれぞれ違うため，歯みがきをやっているところやっていないところがある。今後はやっぱり正しい啓発が必要になってくると思う。
続いて，沼田委員，学校と学校歯科医の連携についてや今後取り組んでいったらいいと思うことがあったらご意見お願いしたい。

【沼田委員】
先ほど水田委員から出た障害児の受け入れの歯科医院についてだが，高知県歯科医師会で先月受け入れ体制があるかどうかというアンケートが回ってきているため，今後受け入れ体制をどうするかと高知県歯科医師会で検討しているところではないかと推察される。
学校と学校歯科医との連携については，コロナ前までは，内科の先生，耳鼻科の先生，眼科の先生，ＰＴＡの方もそれぞれ集まっての学校保健委員会が年に１回あったが，コロナ禍では書面だけのやりとりになっている。そういった意味で今は連携がかなり崩壊している状態じゃないかと思う。
先ほども話があった，校長会も含めて，連携していくためには，１校単位で考えていくことが大切で，学校と学校歯科医との連携の橋渡しをするようなシステムを構築しなけれ

ばいけないと考えている。
　とにかく今の状況では，担当が集まって話すことがなかなか難しい状況なので，歯科医師会が，ＰＴＡ連合会や校長会で話をしたりする場を設けることによって，直にいろいろな話を聞くことができるのではないかと思うし，連携を行う前のヒアリングを中心にやっていくべきではないかなと考えている。

【田岡委員】
　情報共有は必要だと思うので，ヒアリングを続けていって情報集めて，何が有効かということを考えていけたらと思う。
　続いて，大野委員，学園短大の学生は，小中学校への指導に取り組んでいるが，成人の方に指導に行く機会はあるか。

【大野委員】
　成人の方については，コロナの前までは，企業の中で行っていたところがある。そういった声があれば，大学としてはなるべくそれに答えるような形を取っている。
　その時の内容としては，健康まつりの中で，口腔機能のことと，口腔の細菌チェック，歯みがき指導等を行い，楽しみながらできる内容を学生が行っていた。
　また要望があったら行かせていただく。

【田岡委員】
　また情報提供していき，活用させていただきたいと思う。
　松本委員，保護者の方も歯科受診が必要で，節目検診を受けている方，各々で歯科医院を受診している方がいると思うが，保護者の方へ受診勧奨をする機会はないか。例えば，先ほどフッ化物洗口の話を歯科医師会がさせてもらうという話をしていたが，そういった場で，小中学生はフッ化物洗口が大事，保護者の方の口の健康についても併せて話をさせてもらうことはどうか。

【松本委員】
　先ほども連合会の方でいろいろ研修を企画してやっているという話をしたが，子どものための研修内容もあるし，保護者への教育っていう部分への研修もやっているので，一緒にやるっていうのは難しいかもしれないが，子ども向け，保護者向けと機会を分けての研修は企画できる。

【田岡委員】
　また歯科医師会の方で実施方法等検討するようにする。
　あと続きまして片岡委員。歯科衛生士会としてできる，環境整備について何か思いつく案がありましたらご意見をお願いたい。

【片岡委員】
まず今回の資料は，課題が見える，きちんとした分析がされていて，対策をこれから考えていく上での土台になると思った。
歯科衛生士会では，今年，働き盛りの事業所健診の方 1000 人ほどの歯科保健指導を行った。アンケート結果は現在分析中だが，やっぱり高知市の方が特に多かった。ちょっと仕事を抜けてきているから歯科保健指導は受けられませんという方が結構いた。
資料にもあった社会環境整備は，本人の知らない間にいつの間にか健康になっているということを目指していくことがすごく大事になってくると思う。子どもの時代はフッ化物洗口がそうだと思う。学校でフッ素のぶくぶくうがいをしたら，知らない間にむし歯がなくなっていたということで，大人の場合はどうかというと，学校を卒業して，本人が行かないと歯科健診が受けられない時期に入った時に，どれだけ意識を高めるかだと思う。
その時にやっぱり，事業者健診は，事業者が仕事をお休みさせて，健診に行ってもらうと思うが，歯科健診の場合はどうか。お休みを取って，個人のレベルで健診に行くのか。
今後，環境を整えると考えたら，事業所側が，社員の全身の健康のために，仕事を有給で休める環境を作ることが，成人期の健康，歯の健康に繋がっていくのではないかと思うので，本人の努力ももちろんだが，事業所側の，経営者側の方も健康経営ということでご努力いただけたらとすごく感じている。

【田岡委員】
そういうことは，どこからアプローチしていったらいいのか。行政が入っていただいて，そういうのをすすめていけたらいいのかなと思うが。

【健康増進課】
上原委員は，産業保健の分野での指導をされているので，何かきっかけがあったら教えていただきたい。

【上原委員】
歯科健診も定期健診と一緒にするようにというような国の方針が出たように記憶しているが，具体的なところがわかっていないが。そういう方針が出ていなかったか。

【健康増進課】
国の骨太の方針に，国民皆歯科健診の具体的な検討が記載されたことから，厚労省がいろいろモデル事業を行っている。
それに関しては地域の分野でも何か取り組むことができないかということで，歯科医師が診察しなくても，気軽に口腔内の問題に気づけて歯科医院に行くきっかけづくりにつなげていくツール等についてのモデル事業の募集があり，高知市も，舌の汚れをスポンジで拭って歯周病のリスク判定を行うアドチェックという検査と，簡単なアプリでお口の中の

状況を判定するという方法のモデル事業を実施した。

令和５年度も国のモデル事業はあるようで，企業の方でもそれを組み込むような形のことができないかということを模索していると聞いている。2026 年あたりに，導入していく方向というのは資料で見たことがあるが確実ではない。

国としては毎年歯科健診に関する項目や補助事業等も増えてきているので，働き盛りの世代にいかに歯科健診の機会を作って，歯科受診に結びつけるのかはというような動きは出てきているところである。

私が上原さんに教えていただきたいのは，健康委員さんとか，企業の中で健康についてきっかけづくりをつくってくださる方とか，そういうところへの働きかけを通じて，企業の中で歯科受診等について働きかけることができないものか。

【上原委員】

健康保健委員さんといって，協会けんぽと事業所を橋渡ししてもらう方を事業所に１人，２人置いてもらっていて，順次増やしていっている。その方たちに啓発などはできる。

年４回ぐらい健康保健委員さん宛に広報しているため，書面等での周知はできるが，高知市の方だけにというのが難しく，全県下の方に向けてという形にはなる。また，研修会とかができるようだったら，参加募集もできる。

【田岡委員】

やはり高知市だけの問題ではないと思うので，全県下に広げてもいい話だと思うのでご協力いただけたらと思う。

では，植田委員，先日の三師会でも話が出た，ほうっちょけん相談窓口や，健康づくり支援薬局など，薬局ではいろいろやられていると思うが，今後行政と薬剤師会と，我々歯科医師とどういうふうに連携をしていけばいいか，薬局に来られた方にどういうふうに歯科受診を勧めていくか，必要なツールとか方法みたいなものがありましたら，教えていただきたい。

【植田委員】

薬局というところでは，在宅で対応する患者さんに対しては口腔ケア等に関して気にすることはあるが，日々の薬局での業務の中での連携は難しいところがある。薬局は 200 件弱あるので，窓口での配布物等での啓発についてはご協力をすることができると思うが，どうしても無関心層を掘り起こすことはなかなか難しい。

今後は，気になる患者さんには，かかりつけの歯科医院を確認したりなど，歯科との進んだ連携をしていかなければいけないと思っている。

【沼田委員】

今皆様の意見を聞かせていただいて，社会環境の整備ということについて，核となるところの一つとして，この現場にいる皆さん世代の壮年期じゃないかと強く感じている。

壮年期のほとんどの人は働いていて，健康障害が表面化している方は，実は少なく，潜在的な予備軍の方が非常に多い。そういった方々を掘り起こすためには，どうしていかなければいけないかということが大切であると思う。

僕は，産業保健の方にも関わっていて，労働衛生コンサルタントという資格を持って企業とタイアップをしながら取組等行っているが，受診勧奨を行っても，先ほどご意見があったように，忙しいし，行く時間がないし，そんな時間は取れないという方がほとんどである。

では，最初にまずアプローチできることはどんなことかというと，働いている人は，自分のことについてはあまり関心がないという方がいる一方で，子どもの教育のこととか，親の介護のこととかには，意外に興味を示す方も多い。なので，ご本人の健康の話に入る前に，まず子どもとか，介護をしている親のこと等の話をしていくと，そこから徐々に自分のことについても耳を傾けてみようかなとなることがある。

事業等でアンケートを取っても，かかりつけの歯医者さんを持っている方は，約４割しかいないという結果が出ているが，そんな中で，みなさんにお聞きしたいことは，まず，松本委員，仕事もしていて，保護者の代表でもあるが，例えば，ちょっと歯が痛いとか，うずくなというぐらいで，歯医者さんに行くかどうか，我慢するかどうかという，自分の健康の価値観と仕事とのバランスについて聞きたい。

それから，上原委員，片岡委員にも聞きたいが，企業健診とか保健指導するにあたって，それをすることによって，ご自身たちの保健指導の効果，検証を行っているか。先ほど 1000 人のアンケートについても話があったが，その結果が出て，今後どう取り扱うのか，そして，事業所の方とどうやって連携を取っているのかっていうことをお聞きしたい。

あとは植田委員にもお聞きしたいのが，医科も歯科も薬科も健康障害を持った人いわゆる患者様って呼ばれる方々を相手にしているが，潜在的な方，いわゆるまだそんなに悪くなって薬をもらうほどではない，病院に行くほどではないという方々に対して，何かその薬剤師会としてのアプローチする機会があるのかというところをお聞かせいただきたい。

【松本委員】

僕自身は，20 代の頃から奥歯がむし歯になっているのは分かっているが，もう 20 年以上歯医者に行っていない。痛みが出たことが２回ぐらいあったが，痛み止めを飲んで痛みが治まれば終わりという感じになっている。

先ほどからちょっと話が出ていたが，会社で年に１回健診に行きなさいという日があり勤務時間中に受けに行っている。例えば歯が痛くなって治療に行くとなると．休みを取って行かなければいけないため歯科の受診はハードルが高い。

年に１回の健診や人間ドックでも体のことしか診てくれていないので，オプションでも

いいので，口の中も診てもらえたらと思う。
　胃とか大腸の検査で精密検査の結果が出て，病院に行きなさいと言われるのと同じように歯科も結果が出て歯科受診しなさいと指示が出ると，もっと歯科受診する気になるのかなと思う。

【沼田委員】
　人間ドックではオプションに入っていると思う。

【上原委員】
　高知検診クリニックには歯科健診があるが，他の健診機関ではないと思う。

【沼田委員】
　やはり働いている壮年期の世代では，20 年ぶりに歯科受診という話はよく聞くので，それがやはり実情かなと思う。
　実際，健診での指導の現場に立っている方に，その指導の効果というか，その後につなげる形について聞きたい。
　例えば歯科健診が今後入ったとして，歯科医師がその場で「歯科受診して」と言って受診につながるわけではなく，間に誰かが入って受診勧奨する形になると思うので，今の実情を教えてほしい。

【上原委員】
　保健師や管理栄養士が事業所に保健指導に回っているが，通常の特定保健指導はメタボの方を対象に指導しており，必要な方には口の健康についても話をしている。
　血圧が高い方とか，医療機関の受診が必要な方に対して指導をしても，受診してくれる方は少なくて，重症化予防というところで苦労している状況である。
　先ほど健診で，口の中の健診がないから，そういった場で言われたらひょっとしたら行くかもしれないという意見があったが，今，保健指導をやっている中で，通常の受診でも難しく，健診とは別にもう 1 回受診のために休みを取っていかないといけないという事業所がほとんどである。事業所によっては，特別休暇を与えているところもあるが，少数であるため，休みが取れないので受診できないということをよく聞く。
　優先度を上げてもらうという部分でどのようにしたらいいのかと日々困っているところなので，何かいい方法があれば教えていただきたい。

【片岡委員】
　かかりつけ歯科医を持っていると言っても，歯科受診は，なかなか悪くならないといかないというのが現状だと思う。
　歯科健診や歯科受診に関しては，学校を卒業したら，個人の努力になるわけだから，卒

業する時に，これからは自分でかかりつけの歯医者さんを持って，定期的にメンテナンスをしてもらうということを働きかける取組が大事なのではないかと思う。

仕事をし始めると，定期的にメンテナンスされるという方は少ないので，悪くなる前に，意識の低い方に対してどのように働きかけていくかを私たちも考えているところだが，学校卒業時はすごく大事な時期なのではないかと思っている。

【沼田委員】

今お話を聞かせていただいて，今出てきたこの問題は，企業側の取組が大切である。

高知県は，大企業の数が圧倒的に少なく，中小企業が非常に多い。大きな企業が少ないということは，福利厚生が充実していないとか，健康についても対策がなされていないという現状である。

療養・就労両立支援指導料というのがあり，糖尿病やがん等の疾患の方は，口の中のケアが大事ということで，会社の産業医からの情報書があれば，歯科医師も保険点数が算定できるという制度もあるが，歯科医師の中でも広まっていない。

働く現場の方々，行政の方でさえ実務に追われていると思うので歯科医院に定期的に通われている方は少ない。

これは，企業の話になってくるので，僕らでは確かにどうすることもできないかもしれないが，小さな事業所，例えば３人とか５人の事業所でも，そこに目を向けて，歯科医師会等が話をすることによって，ちょっと歯医者へ行ってみようかなというきっかけになるなど，先ほどの校長会と通じるところがあるのではないかと思う。

みなさんのご意見を参考に，歯科医師会でもちょっと検討していきたいと思う。

【植田委員】

保険薬局は，やっぱり処方箋がないと入りづらいといった状況だと思う。

高知市では，ほうっちょけん相談窓口っていうのがあり，現在 78 か所，薬局が窓口になって、市民の困りごとを行政につなぐという取組を行っている。

実際処方箋がなくて、健康相談みたいな形で入ってこられる方も少しはいるが，処方箋を持っている方が圧倒的に多いというのが現状である。

コロナ禍になるまでは，いきいき百歳体操とか，健康まつりとかそういったフェアがある時にブースを出して健康相談やお薬相談をやっていたが，現在はなかなか大規模な取組ができない状態になっている。

やっぱり，潜在的な方に対してのお薬の啓蒙ができる場面を，もっともっと増やしていかなければいけないと感じている。

最近では、薬局がないエリア，高知市でいうと土佐山の地区で，お薬相談会や，とさやま保育園では保護者向けに個別のお薬相談会等など，薬剤師会として，こちらから出向いて啓蒙していく取組をやっているところである。

【水田委員】

先ほど小学校の方は，フッ化物洗口の費用を２年目以降も出しているとあったが，保育園もあればありがたい。

先日，自分が通っている歯科医院に，小学校一年生で初めて乳歯が抜けた男の子がいたが，終わった後，待合室で先生が「ようがんばった」と頭をくしゃくしゃとなでていて，男の子は嬉しかったと思った。

歯科医院は，大人でも敷居が高く，キーンという音を聞いたら不安になってしまうので，先生の優しい言葉がけは大切だと感じた。

【健康増進課】

民営の保育園の方の２年目以降は，園にお願いしている状況である。

【田岡会長】

みなさんの話を聞いていて，結局は，社会環境整備というのが大事ではと思った。

健診を受ける，受けないにしても，受けさせる環境を作るだとか、受け皿づくりは誰がするのか，どういう環境を作るのかっていうのも，今後考えていかないといけない課題である。

壮年期の話が出たが，やはり口は生まれてからすぐ作っていくので，離乳食が始まる子どもから，介護が必要な高齢の方まで，絶えずそのライフステージに合わせた環境というのを考えていかなければいけないと思うので，一つを切り取るのではなく，全体的に考えていけたらよいと思ったし，この会でもそういう話をしていけたらと思った。

今後ともご協力をお願いしたい。

閉　会

事務局より連絡事項

・令和５年度は年１回実施予定